

南路志

年譜拾遺

卷百三

和書門類			
三五八	二	一	八
號	函	架	冊
八	一	一	七
冊	架	函	冊

內閣文庫			
三五八	二	一	八
號	冊	架	函
八	一	一	七
冊	架	函	冊

內閣文庫	
番號	和 22548
冊數	87 (84)
函號	176 42

211047



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





南路

志卷百三

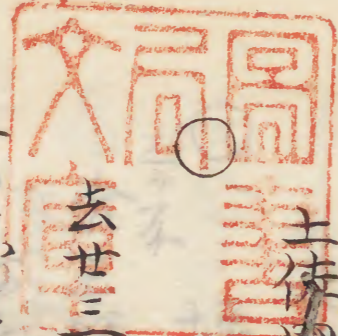
内一〇三七號

武藤致和集

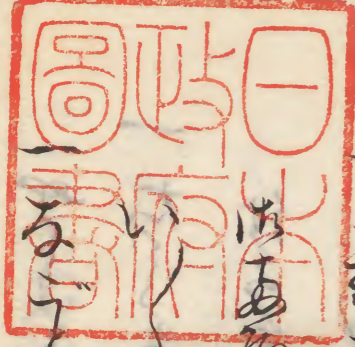
年譜拾遺七

上徳園三蟲簡集卷之七

奥官藤九郎正明編集



去世三月廿七日



一むきき 福三ちりす志あらせせしるまき志んく
いあぬ換いすちゆうごういぬめく波あきさきふな
いぬまては持あき
いぬらささめてさうまうあさうあきあき

慶長

一 予之物

一 志河川 其 あり世の ありと ありと

付るる ありと 大系 ありと ありと ありと

ありと ありと ありと ありと ありと ありと

ありと

ありと

二月廿九日

大藪紀伊守

大藪紀伊守

久内

右土佐郡本川郷伊藤又左衛門藏凡三通今按慶



山一〇五

長二年十酉朝鮮再征伐因元親盛親渡海又按大

藪紀伊守伊藤氏而本川五黨之一人也住大藪村故

以大藪為家號焉蓋和田筒井伊藤中山山中為

本川五黨也

○坪付

土居

合三順四三代

下田村

右名福乐寺寺中 勢比多木市色系

慶長三年 卯月十日

右

○ 右上田村 宇兵衛藏 凡四通

何龍曰此文書今田村屋源 右衛門藏

慶長

二

大教紀列

小川係四郎

右高知大藪茂助藏凡二通今按慶長三年戊戌
夏元親盛親歸朝小麥取三太郎家督裁之也明
甚焉

○入控

合寺所並及四捨代

入控 藤市五郎

入控 藤村

慶長三年十月十二日 山内三郎右四

右方加増

西

右幡多郡 三原郷柚木山伏真教藏

○妙見社慶長三年戊戌 霜月三日地頭弥次郎清岡喜左衛門清

岡弥左衛門

右馬路妙見社棟札凡二枚今按弥次郎安田郷領主也世系

見安田八幡棟札矣

○八幡宮慶長三年戊戌十一月十二日地頭安田又兵衛惟宗朝臣

泰綱同弥次郎 安田孫右衛門綱之同太郎兵衛橋朝臣歳

將孫右衛門孫彦十郎官田菊之進橋朝臣定信同彦市

郎西岡庄右衛門安田五郎右衛門同弥三進岡本三郎左衛

慶長

五

開山使清岡三郎兵衛沙汰人山本坂成三郎岡本三郎五郎

右安田八幡棟札凡五枚

○十四ヶ不 坪付 入美彩高句路

○十七ヶ不 会々河八右共代甲安 昔村 入美彩高句路

慶長三年十月廿一日 所みまき花押

○十四ヶ不 慶長三年十月廿一日 山内三右兵衛

在名年取不毎付多知行上表出さる中知守分上表

仕志良地抄香匠中付方先流分金知行上表

至公者也

盛親 丑

右香美郡上田村源六藏

○ 坪付 志和薬師寺経

○十四ヶ不 会七修 三接八代水安夕 志和 薬師寺分

○ 慶長三年 丑 山内三右兵衛

○ 十二月廿一日 久乃修平也

○ 右志和薬師寺藏 凡三通

○ 三所権現慶長三年 戊十二月三日大檀那長宗我部羽

柴侍従元親公并吉田孫左衛門 同土方五郎右衛門

右甲浦三所権現棟札凡二枚

○ 合権現 坪付 修村左近也経

慶長

六

合九ヶ所寺町七代四歩夕寸

慶長三年拾二月十日 山内三郎右

右長濱嶋村久右衛門藏凡三通

西

坪付

○

合廿三ヶ所寺町五代五歩夕寸

坪内檢多

永原 寺津加 大津 堀井田 内五

慶長三年拾二月十日

山内三郎右 久万次郎右

右長濱嶋村久右衛門藏凡六通

西

右長岡郡新改村阿弥陀堂棟札

今東諸木庄屋 堀内市之進

○勝福寺大檀那盛親慶長三戊十二月十二日

右長岡郡新改村阿弥陀堂棟札

○

坪付

十六ヶ所

合三町寺町卅代五分

弘井分 小糸之右左向分
下地花田分 山川之右左向分
玉津孫分 西内之右左向分
川村之右左向分 玉津之右左向分
若松之右左向分 如原之右左向分
中宿之右左向分 池田之右左向分

慶長

七

慶長三年拾二月十八日 親忠

右大津高野清亟藏凡四通

○長宗我部殿一代之初長宗我部元成孫少孫中納言信能也

右七代目兼光之孫子五人

- 一 長宗我部友
- 二 廣井
- 三 中津 子村上村岡田
- 四 蒲原 子西澤益田

五大

土佐新田中田五郎初孫久四年大黒太郎左衛門尉範

右高知大黒甚右衛門藏凡十二通今按秦家系譜長

宗我部之元祖能俊其七世孫兼光兼光蓋元弘建

武時人也此文書為兼久四年大黒太郎左衛門尉範

宗領松田串田至慶長三年充三百七十年以是推之

○ 評付

筆 彦左衛門

慶長

二ヶ系
合三順代五分

片山 七ヶ系
日 横山 孫十ヶ系

菱七四年二月三ヶ

山内 三ヶ系 太花押
久万 水部 三ヶ系 日
依光 法 三ヶ系 日
依光 法 三ヶ系 日

右高知華工八岳備藏凡四通
右高知村野地也 備門 藏凡十二画 合村 卷 卷 卷 卷

○ 坪付 森中 右册紙

中万田日向西ヨリ 菱七代 森中 片山 新嘉 坪付
砂屋 四ヶ系 九代 三ヶ系

菱七四年二月三ヶ

久万 水部 三ヶ系
依光 法 三ヶ系
山内 三ヶ系 太

右高知村野地也

右佐園村森本 金太夫 藏凡十三通

○ 坪付 永山 野地 三ヶ系 太

○ 合田 杉 砂 所 六代 五ヶ系 大井 足 村

右高知村野地一毛 依光 法 三ヶ系 太花押 日
より 依光 法 三ヶ系 太花押 日

新嘉 坪付

第四

二月七日

市義

永公

右仁井田栞木山村永山平六藏凡四通

○坪付

立田 山田

○合山町 武代 幸 夕

岩打 佐地

○萬世如年 三月廿

久方 山内 三郎 太

○右大津村高野清之丞藏凡四通

藤原朝臣

○欽奉上棟三島大明神

名本 中平六進重良 其子正十代丸 官崎吉兵衛

于時慶長四年己亥三月十三日

○右上山郷四手村三島社棟札凡四枚

○坪付 長谷川 幸 夕

ホウタノ 三拾八代 桑名 友 夕

クツカケリ 三拾八代 五百 友 夕

サトトミ 四拾八代 幸 夕 伊 友 夕

三拾五代 借屋 友 夕

廿五代 尾 寺 友 夕

廿代

合五 友 夕

慶長

十

慶長二年三月十四日 親忠 妻

右香美郡上田村渠吏安兵衛藏凡五通

○ 坪付 十四ヶ不 下司控事

合意町 五ヶ不 上田村

慶長四年三月廿日

久万次郎 矢野甚多 山内三郎太

○ 右野市下司孫三郎 藏凡五通

○ 種物箇多家中航 一切取り 他五ヶ不 一切取り たりしり

右野市村傳兵衛藏凡二通

○ 岩村 妻田 凡五通

右野市村傳兵衛藏凡二通

○ 坪付 七ヶ不 城 凡五通

合意町 五ヶ不 横尾村

○ 慶長四年壬三月十二日

久万次郎 矢野甚多 山内三郎 山内修 山内修

慶長

右下山藤野川今城源七藏凡四通

○

坪付

九ヶ所 ○ヤフシ不見

合意所 三ヶ所

虫

○ 菱七四年後三月廿二日

山内三郎右
濱田二番右
下村五郎右
借屋七郎右
池 小多橋

右津野山吉生野村津野三右衛門藏凡三通

○

坪付

合意所 四ヶ所

あは 西内源左名分 日 寺水屋名分
川小村 あ田分

サリシ モシロセ西 ニツクリ スエサ 小橋
カニツキ 石ヤシキ 東岳 ヤカイ ニウシマ サテ久

○ 菱七四年後三月廿二日

山内三郎右
濱田二右名
下村五郎右
借屋七郎右
池 小多橋

○

坪付

十ヶ所

合意所 八ヶ所 西内源左名分 日 濱田分

井ノ口 ヲクロイワ ツルカ内 タイノオ
ヨコタ サワ・ ニラシマ

菱七四年後三月廿二日

右共 連名

○

坪付

合意所 七ヶ所 合意所 菱七四年後三月廿二日 日 下村分 日 城領

慶長

十二

ワサタ ヤナイ 傍 杉平 水山夕 甘イ夕ノ木
小島 久木ノ下 イセ六 小ヤシキ

○ 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

右三通 高知 高橋 与六 藏 凡七通

○ 加 坪付 津波 沼三 路

○ 合 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

右津野 三右衛門 藏 凡三通

○ 九 坪付 弘康 藤 色 路 右方人 姓名

○ 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

○ 花 坪付 弘康 藤 色 路

○ 合 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

○ 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

○ 三 坪付 弘康 藤 色 路

○ 合 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

○ 菱七四年 後三月廿二日 右方人 姓名

○ 下 坪付 弘康 藤 色 路

右香美郡韭生郷前田團助所藏

視 朴木村庄屋源助

○ 坪付

八段ノモテ
幸多ク分

中村

高田分

右志城屋敷^{乃務田}あり地^中あり

○ 菱七以年六月廿六日盛親

其田畠^中あり今城^中源七藏

右下山郷藤川村今城源七藏凡四通

○ 坪付

十二ノモ
合三所

右志城屋敷あり今城源七藏

菱七以年六月廿七日 盛親 **西**

○ 奉使^中あり

右羽根鍋島五郎右衛門藏凡四通

○ 坪付

十ヶ所
合七所

右志城^中あり

菱七以年六月廿八日 盛親 **西**

井上強一

右下山郷江村權谷口番人井上作亟藏

○ 坪付

慶長

共

右植田村依光七之助藏凡十通

○ 坪付

數行破失

三折五代 四六夕

合卷所 五代 五方夕

慶長二年十月廿一日

久万原 高島
色澤 傳太
宮地 五右
下村 五右
新 杉 神の

○ 五十九坪付

合卷所 五方夕 五折五代 五方夕

慶長二年十月廿一日

右 五右 五右

○ 五十三坪付

合卷所 五方夕 五折五代 五方夕

慶長二年十月廿一日

右三通長岡郡妙見村藤崎善五右衛門藏凡四通

○ 以上 四

上巻付 五折五代 五方夕 五折五代 五方夕

一 比河五反比拵三代五反 十川内四反
 一 比河八反十八代五反 新田津老所
 一 比河六反五代五反 官振津八反
 一 比河五反比拵三代 奥(河)子五反
 一 比河八反三拵三代五反 尾島原十反
 一 比河九反比拵三代五反 东 市 苑
 一 比河四反比拵三代五反 中江内五反
 一 比河七反拵三代比拵五反 为地 册
 一 比河五反五代 中 市 上 下 反
 一 比河五反五代 白 市 上 下 反

一 比河三反拵 三代比拵 上山 市 上 下 反
 一 比河八反十代比拵五反 奥 勘 多 博
 一 比河比反十代比拵五反 杉 谷 五 反
 一 比河八反廿八代比拵五反 南 市 五 反
 一 比河九反廿八代比拵五反 林 少 多 博
 一 比河五反比拵三代比拵五反 官 振 津 若 多 博
 一 比河七反三拵三代五反 少 地 原 五 反
 一 比河三反比拵三代五反 下 津 井 砥 色
 一 比河五反九代 白 市 上 下 反

慶長

立

一 寺所七五廿三代
 一 寺所四五三指寺代沙安
 一 四所
 一 寺所沙安沙安代沙安夕
 一 寺所三安代沙安
 一 寺所九代 寺安
 一 寺所沙安五代沙安夕
 一 七五沙安代沙安
 一 七五 三代
 一 寺所安代沙安

古尾 将監
 南 権色
 寺所七五三指
 村尾九代寺所
 村尾寺所
 愚川 五三寺
 竹内 寺所
 寺所 寺所
 同 寺所
 同 寺所

一 三所安代沙安
 一 寺所七五八代沙安
 一 寺所七五八代沙安
 一 寺所七五八代沙安

護 杉 寺
 大 安 寺
 寺所 寺所

一 寺所七五八代沙安
 一 寺所七五八代沙安
 一 寺所七五八代沙安

寺所 寺所
 寺所 寺所

右上山中屋市左衛門藏凡三通
 奉再與鳴無大明神御輿一字
 鳴無社御國主泰盛親公御代官親勝願主八家慶

慶長

廿二

長五年季庚子七月三日

右浦内鳴無社棟札凡四枚

○評付 廣瀬 日分 日分 日分

四十三年 合四所代四步 夜須 日分 日分 日分

長五年七月廿二日

名弟次郎 大思 中傳 法右

右分色 盛親 花押

一三 右香美郡赤岡庄監濱五郎兵衛藏凡九通今按阿

波國日和佐城主日和佐權頭蜂須賀入阿波時遁逃于

上方嘗與秦元親相善故來于土佐國住赤岡改姓名

號濱五郎兵衛秦家滅亡蓬庵頻招歸住于日和佐入

道称安心生子四人左近右衛門弥一郎少兵衛藥主寺

此也左近右衛門弥一郎苗土佐少兵衛侍安心左近右衛

門始居于大坂大満後住于赤岡生傳兵衛傳兵衛

生子亦名傳兵衛弥一郎仕秦氏食采禄後改名長兵

衛生子四人僧宥嚴為五臺山住僧六右衛門兵助此

二人後住日和佐五郎兵衛住赤岡少兵衛生幾右衛門住

日和佐六右衛門生僧宥璟亦為五臺山住持五郎兵衛

慶長

無子養異姓為子幾右衛門生年兵衛住日和佐領安
心遺跡

○ 坪付八部 村尾九部多傳 延 吉田源左衛門

合意所為信三代二分 上山五部多傳 村尾

其長子年七月廿二日 吉田源左衛門 久二部多傳

右之知り 若也 國之親盛也

國之親盛也 吉田源左衛門 久二部多傳

工部 村尾九部多傳 來下土部國封赤田

右下山郷江川村村尾源之丞藏 久二部多傳

○ 坪付八部 延 吉田源左衛門

合意所印代 山岡 延 誠久

其長子年七月廿二日 中清治左 大正

厚子為助信也其之

盛 花押

其長子年七月廿二日

右森本金大夫藏凡十三通

○ 坪付 延 誠久

合意所七代志也 中清 上 久

慶長

廿四

慶長五年七月廿日

久方波部
山甲修理

右の如抄を全之為り

盛親 丑

尾田忠多

右岡崎孫藏凡六通

○ 評付

春吉新女

十力上二五所六分内

宗昌

三浦助左衛門 上飛

○ 此後三抄八代

山口

山口

○ 此後此代同別

山口

○ 此下
此後六代

山口

合六後此代四分

久米宗信

大黒寺

杉田五郎

光 後 丑

右の如抄を全之為り者也

西

慶長

廿五

高細...久平...入祝...
九月廿九日

九月廿九日

中平...
九月廿九日

右三通...
九月廿九日

九月廿九日

野可見

野可見

○山申...
九月廿九日

山...
九月廿九日

慶長五年九月廿九日

右主佐郡本川

和田源左衛門藏

○修村...
九月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

山...
九月廿九日

慶長

廿七

中 猪
宗 殊
あうまゝ 方 也

右長濱嶋村久右衛門藏凡三通

○ 今度さうの石津の形と中山新系事 陸地（泡）

柳是法形とていひしとて先米三十俵きり出た

事多し東迄系増す付たは在能くす事等

若也

生 丑

五月十日卯 壹 花押

光 檢御との

右病毛中山孫次郎藏

○ ^尚 一人粒極さし由る山鹿麻と法あり

意及し山鹿元善法も先大車討しのり中 赤江系

子一子中法入る人古所妻子女を連出城と其方

頼小直賦結極 出さす付 山鹿とて事の中内

多摩山中二々 一人中法入る山鹿麻とて取付時

取付時とて付 徳意人 子一子あり 之立あ

一人も所付立何今とて中 おは方先出たす切

兼下り之度とて得す付し は及し心事を人々

慶長

廿八

お借帳之... 拾は友一様用... 十月二日 西

十月二日 西

中筋左

佐左之彦左

右佐古庄監市兵衛藏凡二通

○西

... 上人... 上条... 何...

... 是日... 七八... 上条... 何...

十月二日

吉打九多八
代友...

久枝下目丸

慶長

廿九

右久枝前庄監五郎左衛門藏凡五通

○中平次中平次兵衛辰政也

今及至一書之傳乃其名字中付了志也

○文章同上

右高岡郡仁井田郷下久礼地村傳兵衛藏今按已閑

久社領主佐竹兵部少朝親辰入道已閑齋中平次已閑

家長中城平次兵衛辰政也

○文章同上

安和村

○同上

中城平次兵衛

右安和村市左衛門藏

○同上

中城平次兵衛

右仁井田床鋸村新三郎藏

○同上

中城平次兵衛

右仁井田窪川村左衛門藏

○同上

中城平次兵衛

慶長

三十

合部町を及四十八代五多夕 下分大の 持中

○ 菱七五年十月廿二日

右分下元お玉あまの御守に就けりお加増申付く也

盛 花押

下元お二 お二 新くく

○ 右下分村下元助左衛門藏凡三通

○ 免 西

一 少やうけせりう浪意お志申して申事付明是四

一 少やうけせりう浪意お志申して申事付明是四

一 少やうけせりう浪意お志申して申事付明是四

廿六日七日と無程と二廿八日と六日と夢傳申付申

今妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

申も仕付一左右浦へ申付申申申申申申申申申申

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

一 夜妻あま先在り申無程浦へお付て申付て

○ 前右高橋善兵衛藏凡五通

慶長

三十三

欲愁訃内府宥恕其罪猶深懼在國速還使者且
添家士梶原源右衛門川午内記頻進之上京盛親
應之十月十二日入天滿學校寺直政以旨促於伏見
焉盛親發國時弒兄親忠於香美郡岩村鄉神通
寺村初親忌續津野家而住於須崎信親沒後元
親已以盛親為家督姦人譖之曰津野以兄不立其
心不平元親惑之誘招親忠幽之神通寺村奪吉
田孫左衛門尉重年等祿時慶長四年春也今按重年
安喜郡甲浦邊防帥也嘗與親忠相親由是得津野謀主
之疑坐廢明年関原役盛親赦宥之再掌士衆大植
軍功及関原敗又武親直護之曰津野倚知音藤
云

堂佐渡守伊豫守和島領主告内府以不與于元徒事勢將

奪本邦君請思之盛親深信之逼令自殺津野家士
速訃之藤堂氏内府聞之大怒遂除其國賜於山内
氏矣内府命直政令安輯土佐授山内氏直政遣其
臣鈴木平兵衛重好松井武大夫等於土佐令諭秦
氏遺臣盛親亦副家士立石久兵衛干符擡命家
臣渡國於直政之臣山内氏亦同下家弟修理亮忠
豐先約法三章而植國之根幹重好等十一月十七日以
船八艘祭大坂十九日將入於盛親居城吾川郡浦戶
湊時有秦氏士衆吉川善从徳久亀之介池田又兵

衛野村孫右衛門福良及兵衛俊岡彦兵衛下元十
兵衛近藤五兵衛者結黨蜂起頻飛箭炮拒客船
鈴木大呼曰此内府命也敬來并聽酒長奉承之二
十二日繫客船於三曼瀬使鈴木等入長濱村雪蹊
寺然猶未輯和備鐵炮番々圍寺嚴禁出入請鈴
木曰土佐半國賜盛親手否則不受命且盛親居
城不肯開授固請不已問答往返殆^巨二旬驚悍
無礼不可解焉幕府憂之至欲使憐^憐國諸將率
兵赴干土佐雪蹊寺住侶月峯調和之盛親家臣
桑名弥次兵衛吉成南岡四郎兵衛宿宅甚左衛門

福留善之次町野又五郎中内兵庫立石及兵衛定吉吉
田次郎左衛門貞重入道宗性同平右衛門同孫三郎
依岡左傳次國吉小三郎吉村九兵衛十市新右衛門
大黒左衛門太郎林左太郎津野源兵衛親普等自
發兵於處々殺一揆郡黨稍平十二月五日遺臣悉
開退浦戶城云

○此化之書後乃委之由之て當主在之座中河之
中分中一人更之て對之水中元狼藉也
其之て名土佐之兵衛持之て死す其之て名
おさ之て仕合之て上之て表之て死別之て城は後之て

中平 視聽記云是六中城平三采子

三月四日 巳采 花押

中平 視聽記云是六中城平三采子

三采

是六采別の末采人 三采はちんちん
中平三采也四采

是右の採女や

むさしきやうしきあうちほしきりきり又仁井田あひ
てはねをききしきりきりきりきりきりきりきりきりきり

情りうせせしきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

のあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

つゝ定尺のあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

とのりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

右高岡郡久礼中城平次兵衛藏凡三通今按此書

已閑從浦戸寄久礼者也親直久武内藏人 或曰上加 江佐竹藏

人恐 天清天野屋清久門辰貞也已閑去當國和

泉國坂津 下欠

○ 浦戸城より伝中 伝文

一 馬八十三疋

二 矢泡八十張 大小共

一 石火矢九張 大小共 内式法浦戸路石

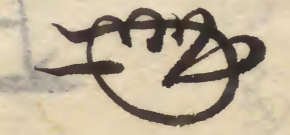
慶長

三八

津波の村邊 色を多し人百姓多し人何れも不
札の付く 品々山内及所多し^{形カ}九七を了り山内親
之代中人^シを了りて^シ

子正月十日

井伊多^シ金在^シの^シ



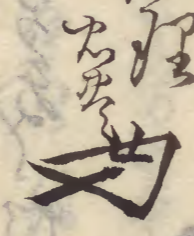
右仁井田郷三本貞右衛門藏凡三通

○急度中入^ルゆ^ニ元在^ル右^ノ自^ラ性^ハ亦^モ山^中一^立止^ル其
所^ニ之^レ還^ル信^ハ由^テ山^内並^目亦^モ其^レ為^ル所^ニ新^カお^シ也^ハ
其^レ為^ル一^紙を^シ信^ハ中^ニ其^レお^シ令^テ還^ル信^ハ其^レ後^ニ
其^レ為^ル亦^モ其^レ人^ニ其^レ仕^テ信^ハ中^ニ其^レお^シ其^レ持^テ其^レ又

百姓多し人何れも不

札の付く

十二月十二日 山内修理



信^ハ中^ニ其^レお^シ令^テ還^ル信^ハ其^レ後^ニ

森山妙見御社園之内
康豊時代慶長十四年
己酉参月二十七日

右赤岡濱五郎兵衛藏凡九通今按修理亮忠豊一
豊君之家弟也後讓諱於嫡孫對馬守改康豊康

○此方為^ル其^レ也^ハ羽根村其^レ社^ニ其^レ後^ニ其^レ也^ハ

奈和利六日安喜七日赤岡八日歷沙濱而入城於吾川
郡浦戸也

○此城控るるの地は地味豊く而も水意多し故に昔中城と號す
入城多し其地は地味豊く而も水意多し故に昔中城と號す
此城控るるの地は地味豊く而も水意多し故に昔中城と號す
此城控るるの地は地味豊く而も水意多し故に昔中城と號す

右三本真右衛門藏凡三通今按谷新右衛門住津野
入理御井田三本之字及
西井十六代後新左衛門友
右三本真右衛門藏凡三通今按谷新右衛門住津野

○ 乃身の上より志心ありてさしり使中と爲り
くくくん系物も及すくくは内よりあり
くくく上より志心ありてさしり使中と爲り
くくくん系物も及すくくは内よりあり

一付状宗尺、この爲りし
七月十九日 さくらが己

○ 右三通久礼中城平次兵衛藏凡四通今按雪蹊寺在
吾川郡長濱永山久兵衛高岡郡須崎庄監慶長五年
卒見修理君書已佐竹已閑齋安和在久礼東隣此以

慶長

四十八

○ 何れも一人のまねてくねるを恨むに
てんすのくくもたふは合のたはりくやまはる
堅固の覚悟むね 天啓のまあらんす 一書啓るん
ゆきしし何れも一人のまねてくねるを恨むに
これ素地思志るし 一書啓るん 一書啓るん
つねのまねてくねるを恨むに 一書啓るん
えせのまねてくねるを恨むに 一書啓るん
何れも一人のまねてくねるを恨むに 一書啓るん
ありのまねてくねるを恨むに 一書啓るん
何れも一人のまねてくねるを恨むに 一書啓るん

二月十日 己 花押

中末の度 一書啓るん

あ 不見

○ 二月十日 己 花押

一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに
一 何れも一人のまねてくねるを恨むに

慶長

四七

Handwritten text in cursive style (sōsho) on the right page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. There are several lines of text, with some characters in red ink (kuzushiji) interspersed throughout. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive style (sōsho) on the left page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. There are several lines of text, with some characters in red ink (kuzushiji) interspersed throughout. The ink is dark and the paper shows signs of age.

壬子月廿一日

長右

盛親



池上常行

右高知池弥三郎藏凡二通

慶長

四十九終

7

30

31

南路志卷之三終



